

車両画像掲載 写真撮影マニュアル

写真撮影のコツ

・カメラ設定でグリッドを設定しておく。

そうすると撮影時に車が傾く、上下左右がズレるといったミスが減る。

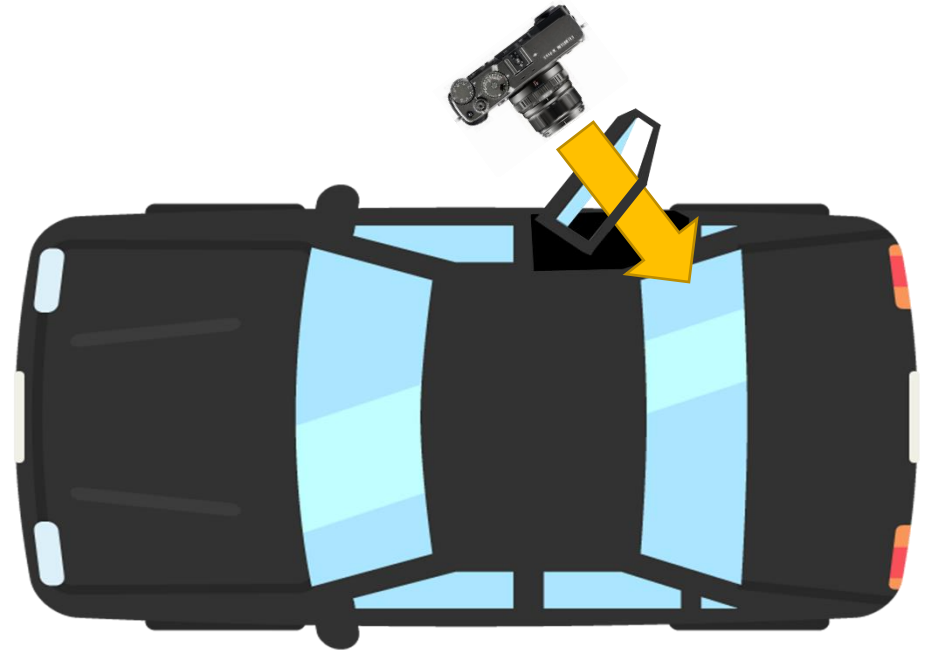
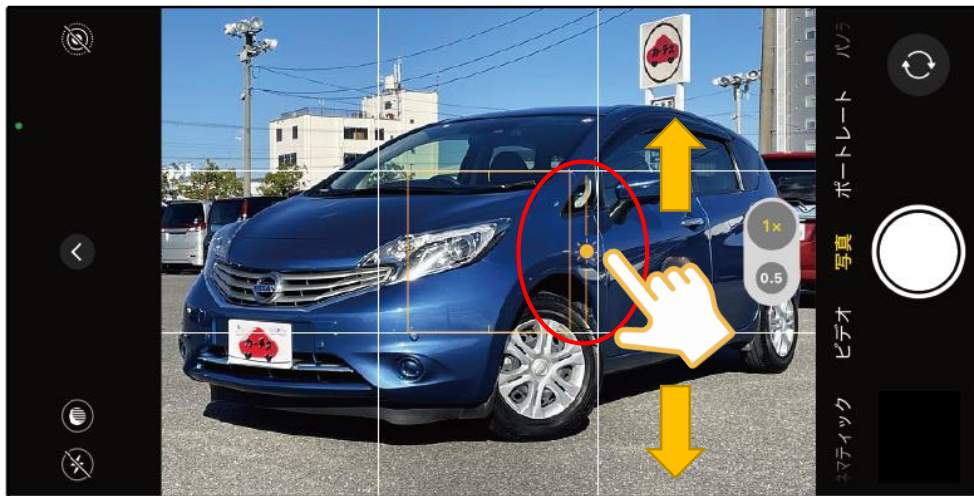
(設定→カメラ→構図→グリッドで設定可能)

・カメラ撮影時は両脇を締め、片膝をつくなどしてぶれないように撮影する。

・露出変更(写真の明るさ)は、ピントを合わせ、太陽のマークを指でスライドすることで調整できる。

・白や明るい色のボディは白飛びしないようにする(露出変更で調整)

・シート撮影時に影が映り込む場合は窓を開けて枠越しに撮ると良い



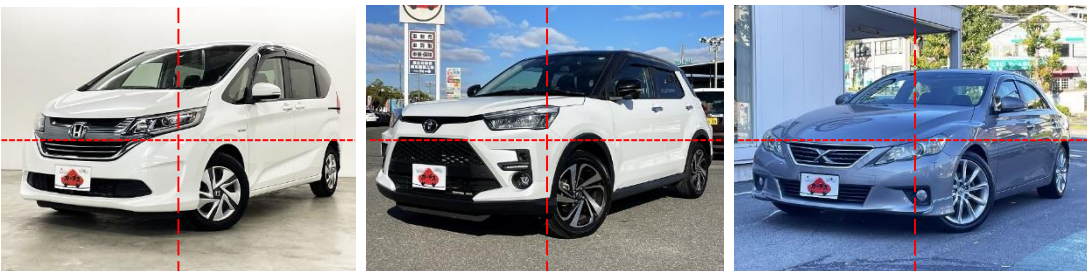
①正面画像

撮影時のポイント

- ・サイドミラーとカメラの位置を水平にする
- ・ハンドルを1回転させ(目安)、ホイールが見えるようにする
- ・場所に余裕がある場合は車から離れて撮影する
- ・撮影角度を水平に、中心に車が映るようにする



ハンドルがきちんと切られ、車体が写真の真ん中に収まっている
日の角度を考え、早朝や夕方を避けて撮影している
車がきれいに磨かれた状態で撮影している



これだけ気を付ければ撮れる

- ①上下左右の余白が均等になるように
- ②サイドミラーの高さが目線の位置で撮影
- ③斜めではなく水平になるよう撮影、グリッドを活用すると良い(カメラ設定で変更可能)
- ④写真が荒くならないようにカメラの性能に合わせた適切な倍率で撮影

※Iphone12、13の場合は2.0~2.5倍くらいが推奨



車体の向きが逆
被写体が小さめ



化粧プレートが外
れかけている



車体が見切れている
上下どちらかに寄っている



逆光で車が見えにくい



ハンドルが真っ直ぐ
画像が荒い



ボンネットが閉まっていない
ライトやウインカーを消す



画像加工のし過ぎ
撮影時の設定のミス



場所の都合もあるが、
出来る限り近くでは撮影NG



②後ろ画像

撮影時のポイント

- ・ホイールが見えるようにハンドルを右に切って撮影する
- ・1枚目同様に、サイドミラーとカメラの位置を水平にする
- ・場所に余裕がある場合は車から離れて撮影する
- ・撮影角度を水平に、中心に車が映るようにする
- ・出来る限り車を移動させ、背景が変わらないようにする。



ハンドルがきちんと切られ、車体が写真の真ん中に収まっている
日の角度を考え、早朝や夕方を避けて撮影している
車がきれいに磨かれた状態で撮影している



- ・車体からの撮影距離が近すぎる
- ・下向きからの撮影



逆光で車が見えにくい



車体の一部が建物の影に被っている



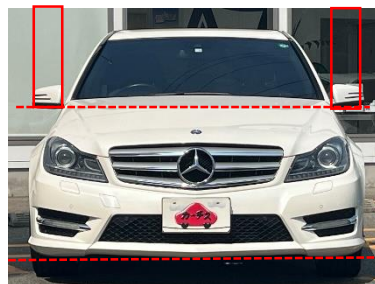
③車の外観(横と前後)画像

撮影時のポイント

- ・ハンドルを真っ直ぐにし、近すぎない距離で撮るのが理想
- ・1枚目、2枚目とは逆向きの写真を
使用すると車の状態がわかりやすい
- ・真正面から撮る時はサイドミラーの位置関係を比べながら
撮影すると真っすぐ撮れる(カメラ機能のグリッドを活用する)



左右のミラーが対象に写る
バンパー下部が水平



タイヤ接地面が水平



メインの前後画像とは逆向きで撮影する際にホイールがわかるように
ハンドルを切りなおしている



スライドドア装備車は開口部がわかるように
撮影した画像を入れると良い



加工のし過ぎ
斜めに撮影



斜めに撮影



④ライトやホイール

サンルーフ等の豪華装備や改造箇所の画像

撮影時のポイント

- ・サンルーフは開けた状態で撮影する
- ・オプションのオーディオや装備はわかるようにする
- ・足回りの改造がある場合フロントタイヤを全切りし
タイヤハウスの内側を撮影
- バネorサスペンションのメーカーロゴが見えると良い
- ・マフラーやエアロ類はメーカーロゴが見えると良い
- ・スポーツカーはエンジンルームを載せると良い

アピールポイントを積極的に掲載して
車を少しでも良く見せること



ライトバルブがノーマルから変わっている車は
アピールのため点灯させる
デイルイトやフォグが装備されているは点灯して撮影すると良い



白飛びしないように注意する



サンルーフが装備されているのに
スイッチしか撮影していない



ホイールは
切らずに正面から撮影



ホイールのセンターロゴが
90度以上傾いている場合はNG



OK!

NG

NG

⑤シートやトランクの画像

撮影時のポイント

- ・日向と影の境界線がシートにかからないようにする。
その場合は日陰の状態でも撮影する等タイミングをずらす
- ・シートは1列目と2列目はすべて撮影し、3列目は真ん中から広角レンズを活用し広く見せるようにする。
- ・パワーシートの場合はスイッチを撮影するとよい。
- ・その他トランク写真やシート格納時、トランクスルー時の写真を撮影する
- ・ラゲッジスペースのアレンジを撮影する際、角度が斜めにならないよう、注意する



↑余ったスペースにはドラレコやパワーシートの写真を入れる

←3列目シート車はこのように載せても良い

- ・ヘッドレスト(下まで下げる)
 - ・座面
 - ・背面
- 全てが映るように撮影すること



ヘッドレストが見切れている
撮影者の影が写り込んでいる



トランク開口部上部が見切れている
助手席のヘッドレストが高い
プライスカードが見えている



斜めに撮影、ホコリがある



背景に雨粒が写り込んでいる



シートの座面、背面すべてが見えるように撮影



レンズの汚れが原因?
掲載前に確認ください



⑥内装ダッシュボード画像

撮影時のポイント

- ・カメラの見切りが左右等しくなるようにする
- ・ハンドルの向きを真っ直ぐにする
- ・撮影角度を水平に、前席シートの間から撮影する
- ・バックミラーに撮影者が写らないようにミラー角度を調整する
- ・エアコンスイッチ類は揃えてドリンクホルダーやアームレストは格納しておく
- ・シート位置が左右で揃っているか確認する

ハンドルがまっすぐになっており、左右のピラー部分の見切りが揃っているピラーの影が映らないよう、早朝や夕方を避けて撮影している内装がきれいに拭かれた状態で撮影している



ハンドルカバーがついている
ハンドルが斜めになっている



広角レンズで撮影
ダッシュボードが
見切れている



ヘッドレストが写り込んでいる
シートを少し倒すか
写り込まない距離で撮影



スイッチ類の向きを揃えると
見栄えが良い
車種によっては出来ない場合
もあるので強制ではない



⑦内装のハンドルやメーターの画像

撮影時のポイント

- ・ハンドルの撮影時は運転席ドアを閉めて撮影する
- ・ハンドルがまっすぐでコラム等のほこりも無くす
- ・メーターはエンジンがかかっている状態で撮影
- ・メーターの撮影時にODOメーターがしっかりと写り込んでいる
- ・メーター撮影時に撮影者が写り込んでいない
- ・ハンドル操作スイッチ部がしっかりと写っている
- ・シフトブーツやコンソール、スイッチ類にほこりやゴミがない



写真がピンボケ
走行距離が見切れている



クルコンスイッチに
ホコリが溜まっている



ハンドル操作部がしっかり
写っている



シフトブーツやコンソール、
スイッチ類にほこりやゴミがない



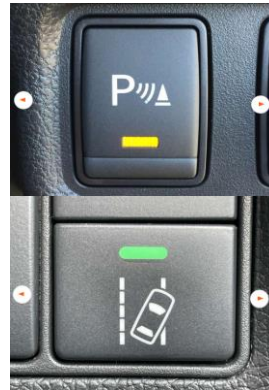
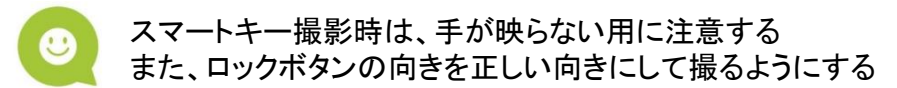
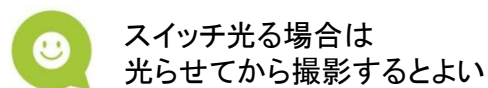
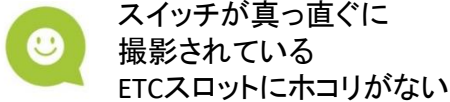
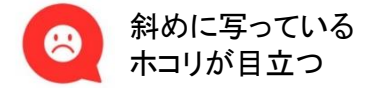
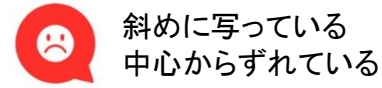
オートライトを撮る時は、
文字を映すと伝わりやすい



⑧ 装備のスイッチの画像

撮影時のポイント

- ・衝突軽減ブレーキ等の安全装備やスライドドアスイッチを優先して掲載する
- ・エンジンスターボタンは車のキーと一緒に撮るとGOOD
- ・ETCカードスロットや各種スイッチ類のホコリがないよう注意する
- ・スイッチが集約している場合、全体を撮影するのみが良い



⑨ナビの画像

撮影時のポイント

・ナビ画面は以下を撮影するようにする

- ①地図画面
- ②オーディオソース選択画面
- ③テレビ画面(映像の内容に注意)
- ④バックカメラビュー(360度ビュー)を載せるようにする。
それらの装備がない場合はBluetooth接続画面等を載せる
- ⑤フリップダウンモニターやヘッドレストモニターがある場合は
7番目の右下に配置し、残り3枚をナビ画面にする



ナビの機能がしっかりと把握できる
撮影者が写り込まない様、角度や場所、時間帯を考慮している。
バックカメラの映り込みに注意している。



画面に撮影者の手が
映り込んでいる



画面にホコリが溜まっている



距離が近い
エアコン画面がついているのはいれるようにすると、
天井に着いていることがわかるように撮影する



※注意

長期在庫がバレないように日付が映らないようにする。
企業ロゴの映り込みや肖像権侵害に注意し、芸能人の顔は特に注意して映らないようにする。